



株式会社 酒井商会

活動期間【平成 29 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日】

エコアクション認証登録番号【000519】

作成日【平成 30 年 5 月 31 日】

目次

1. 代表者、環境管理責任者、各部門長 1

2. 沿革 1

3. 事業の規模 2

4. 認証 登録の範囲 2

5. 環境方針 3

6. 環境経営実施体系及び役割 4

7. 環境目標と実績 5

 (1)二酸化炭素排出量の削減 5

 (2)廃棄物の削減及び再資源化の推進 9

 (3)排水量の削減 10

 (4)グリーン購入の推進 12

 (5)自動車整備及び販売サービスに関する環境配慮の推進 13

8.各記録【緊急時 ミーティング 勉強会】. 14

9. 社会貢献活動 15

10. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無 16

11. 代表者による見直し 16

12. お問い合わせ 16

会社名

株式会社 酒井商会

〒382-0054

長野県須坂市高梨町 2535

TEL:026-245-0397 FAX:026-245-2931

Mail:info@sakai1910.co.jp

HP:http://www.sakai1910.co.jp

マツダ正規ディーラー【マツダオートザムスザカ】

三井住友海上火災保険株式会社 代理店

カーベルスザカ

1. 代表者、環境管理責任者、各部門長

代表者 酒井志郎

環境管理責任者 青木圭吾

ショールーム 増田喜保

工場 山口智

総務 青木圭吾

2. 沿革

明治 43 年（1910 年）、酒井自転車店として創業。自転車の販売・修理を須坂市馬場町で始める。軽量・丈夫を売りとして当時人気のあった「丸石の自転車」を多数販売し、業界で大評判になる。

昭和初期、取扱商品の拡大に伴い移転。本店を横町に、支店を太子町におき、オートバイの販売・修理を中心とする営業を開始する。

昭和 38 年、モータリゼーション（自動車の大衆化）に伴い、自動車の販売・修理を開始。

昭和 52 年、高梨町に本社を移転。須坂市初の自動車ショールームを完成させ、積極的に拡販活動を開始する。

平成 8 年、創業 85 周年を期に、有限会社から株式会社に改組。新社屋と円形ショールームを完成。マツダオートザムのディーラーとなり、現在に至る。

平成 28 年 4 月 14 日、創業 106 周年に、第二創業の出航をする。

3. 事業の規模

年度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
社員数(人)	8	9	11	12	12	12	12	12	14	14	14	14
総面積(m ²)	1702	1702	1702	1702	1702	1702	1702	1702	1702	1702	1702	1702
生産量(台)	3539	3228	3708	4301	5096	4907	5133	4935	4901	5381	5231	5504

4. 認証・登録の範囲

本社及び工場、自動車整備及び販売、レンタリース、各種保険

5. 環境方針

1. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。

- ① 二酸化炭素排出量の削減(低炭素社会への対応)
 - ・電力(工場、事務所)
 - ・燃料(灯油・ガソリン・軽油)
- ② 廃棄物の削減及び再資源化の推進(循環型社会への対応)
 - ・金属屑の削減
 - ・リサイクルパーツの使用
- ③ 排水量の削減(水資源の保全)
 - ・一般水道水
- ④ グリーン購入の推進
- ⑤ 自動車整備及び販売サービスに関する環境配慮の推進
 - ・エコカー、クリーンディーゼル車の販売
 - ・定期点検実施率の向上
 - ・ECO 証券(保険部門)の推進
- ⑥ 社会貢献
 - ・地域での環境活動への積極的な参加。

2. 環境関連法規や当社が約束したことを順守します。

3. 環境への取り組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。

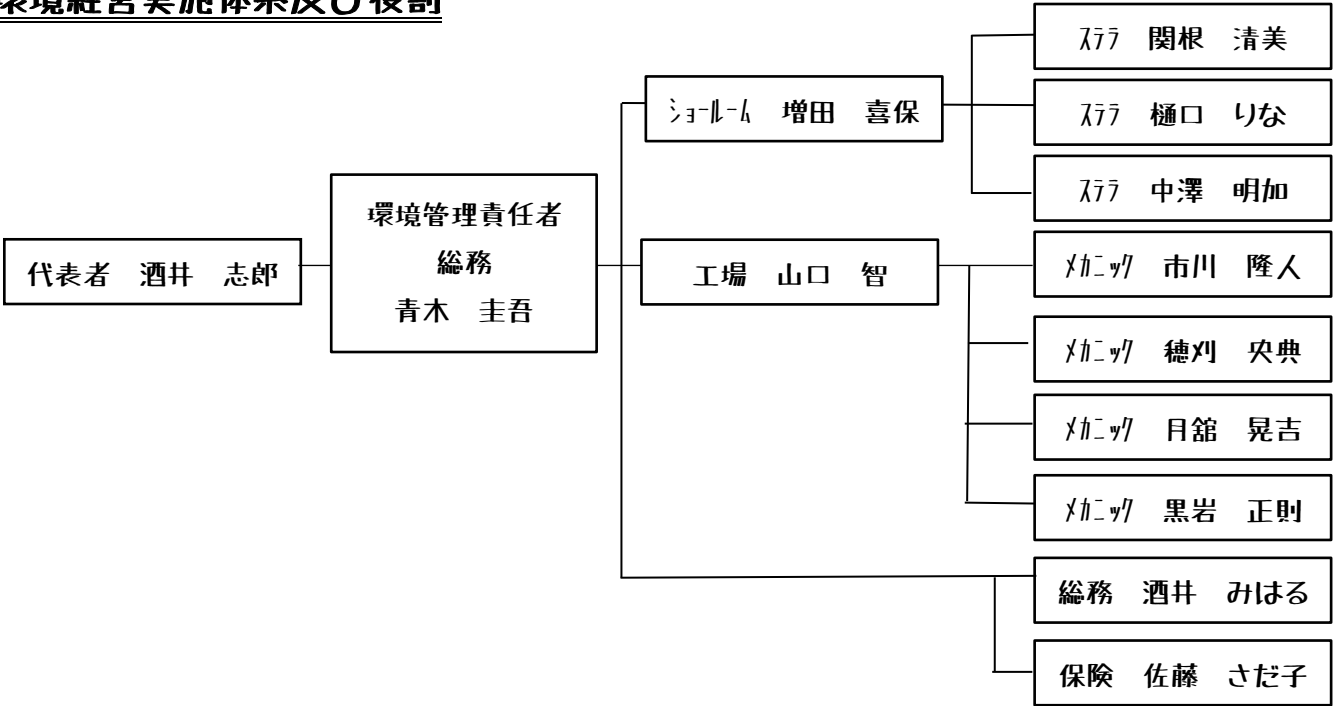
制定日：2009 年 6 月 24 日

改定日：2014 年 6 月 30 日

株式会社 酒井商会

代表取締役 社長

6. 環境経営実施体系及び役割



役割 責任 権限

代表者 酒井 志郎	環境管理責任者 青木 圭吾	部門長 ショールーム 増田 喜保 工場 山口 智 総務 青木 圭吾	全従業員
環境経営に関する統括責任。 環境システム実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術を準備。 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知。 環境目標、環境活動計画書と見直しを実施。 環境活動レポートの承認。	環境経営システムの構築、実施、管理。 環境関連法規等の取りまとめ表を承認。 環境活動の取り組み結果を代表者へ報告。 環境活動レポートの作成、公開（事務所に備え付けと地域事務局への連絡） 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施。 環境目標、環境活動計画書原石の作成。 環境活動の実績集計。 環境関連法規等取りまとめ表の作成。 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施。	自部門における環境経営システムの実施。 事務門における環境方針の周知。 自部門の従業員に対する教育訓練の実施。 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告。 特定された項目の手順書作成及び運営管理。 自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成。テスト、訓練を実施。記録の作成。 自部門の問題点発見、是正、予防処置の実施。	環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚。 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

7. 環境目標と実績

(1) 二酸化炭素排出量の削減【低炭素社会への対応】

二酸化炭素排出量の削減として『電力』と『使用燃料(灯油、ガソリン、軽油)』の削減に取り組みました。

3ヶ年目標は以下の通りです。

項目	リーダー	2017 年度	2018 年度	2019 年度
電力量	樋口 穂刈	基準年(2007 年度)の 9%削減	基準年(2007 年度)の 10%削減	基準年(2007 年度)の 11%削減
灯油燃料	関根 月舘	基準年(2007 年度)の 9%削減	基準年(2007 年度)の 10%削減	基準年(2007 年度)の 11%削減
ガソリン燃料	増田 山口	基準年(2011 年度)の 6%削減	基準年(2011 年度)の 7%削減	基準年(2007 年度)の 8%削減
軽油燃料	増田 山口	基準年(2011 年度)の 6%削減	基準年(2011 年度)の 7%削減	基準年(2007 年度)の 8%削減

2017 年度の実績は以下の通りです。

項目	目標		2017 年度実績	達成状況
電力量	使用電力(kWh)	48,582	53,998	×
	二酸化炭素排出量 (kg-CO2)	24,624	26,423	×
灯油燃料	使用灯油(L)	6,726	6,953	×
	二酸化炭素排出量 (kg-CO2)	16,748	17,313	×
ガソリン燃料	使用ガソリン(L)	10,354	7,583	○
	二酸化炭素排出量 (kg-CO2)	23,814	17,441	○
軽油燃料	使用軽油(L)	1,740	2,549	×
	二酸化炭素排出量 (kg-CO2)	4,002	6,627	×

※二酸化炭素排出係数(電力:0.48kg-CO2/kWh、灯油:2.49kg-CO2/L、ガソリン 2.3kg-CO2/L、軽油 2.6kg-CO2/L を使用)

去年までの主な取り組み		
LED 照明設置 省エネ水銀灯設置	工場の照明を全て LED 照明に、ショールーム水銀灯を全て省エネ水銀灯に変更した。	 
エコ運転教習	自動車教習所のエコ運転講習会に参加して、自分の運転方法の現状、そしてエコ運転の方法を学習した。その後啓発ポップも作成した。	
省エネポップ作成、 掲示	主に各ショールーム内の各スイッチに【こまめに ON OFF】などの表示を貼りつけ、スイッチ操作時に必ず目に入るようにした。	 
残業の減少 【仕事量の平準化】	残業時間の減少のために仕事の均一化を図った。整備予約システム、1 週間の仕事量の見える化に取り組み。いつ、誰が予約を受けても仕事の賑わい具合を見ることができるようにし、仕事量の平準化を図った。	☆壁掛けによる仕事量の見える化  ☆ネット上での仕事量の見える化 
残業の減少 【6SS】	仕事の効率化を図るために積極的に 6SS に取り組んだ。整理、整頓をはじめ、誰が見ても変わるような見える化の仕組み。ショールームに関しては 3 定(定位置、定量、定品)に力を入れ、安全にそして効率よく仕事ができるように心掛けた。	☆お預かりタイヤ倉庫を新設(工場)。  棚番を設定し、個別管理表作成 

☆ゴミ箱の整理整頓



☆ショールーム用品の整理整頓



☆どこに何があるのかの見える化



☆三定(定位置、定量、定品)表

樋口 りな		
品名	定位置	定品
イベントグッズ	---	---
蛍光灯	---	---
インクカートリッジ	---	---
紙類(〜2枚)	1箱	1箱
お客様用紙(連用)	10枚	1箱
お客様用紙(手紙)	1箱	1箱

☆発注者の見える化



(2) 廃棄物の削減及び再資源化の推進【循環型社会への対応】

廃棄物の削減として『金属屑の削減』、再資源化の推進として『リサイクルパーツの使用』に取り組みました。3ヶ年目標は以下の通りです。

	リーダー	2017 年度	2018 年度	2019 年度
金属屑の削減	山口 穂刈	基準年(2007 年度)の <u>9%</u> 削減	基準年(2007 年度)の <u>10%</u> 削減	基準年(2007 年度)の <u>11%</u> 削減
リサイクルパーツの 使用	穂刈 山口	基準年(2011 年度)の <u>6%</u> 増加	基準年(2011 年度)の <u>7%</u> 増加	基準年(2011 年度)の <u>8%</u> 削減

2017 年度の実績は以下の通りです。

項目	目標		2016 年度実績	達成状況
金属屑の削減	削減量(t)	922	2	○
リサイクルパーツの 使用	二酸化炭素排出削減 相当量(kg-CO2)	5,160	2,362	×

去年までの主な取り組み		
産業廃棄物のゴミの分別	ゴミの分別の徹底を確認した。	
リサイクルパーツの 啓発ポスター	整備部品、板金修理部品の見積もり説明の際に、リサイクルパーツでの修理を一つの方法として提案する。	
ロープレ実施	修理内容説明時のロープレを実施した。	
お客様用 修理イメージカタログ	お客様に整備内容の説明、料金の説明に各テーブルで写真付きで説明できるように、カタログを作成した。	

今年の新しい取り組み

月1回の勉強会開催
(リサイクルパーツが未達のためには是正処置)

リサイクルパーツの目標が未達のために、スタッフ一人一人がお客様とお話できるように知識勉強会。リサイクルパーツに限らず自動車に関する勉強会にした。



(3)排水量の削減【水資源の保全】

排水量の削減として『水道水の使用量削減』、『洗車手順の確立』に取り組みました。3ヶ年目標は以下の通りです。

	リーダー	2017 年度	2018 年度	2019 年度
水道水の使用量削減	佐藤 穂刈	基準年(2016 年度)の <u>1%</u> 削減	基準年(2016 年度)の <u>2%</u> 削減	基準年(2016 年度)の <u>3%</u> 削減
洗車手順の研究	山口 穂刈	効率的洗車の確立	効率的洗車の確立	効率的洗車の確立

2016 年度の実績は以下の通りです。

項目	目標		2017 年度実績	達成状況
水道水の使用量削減	削減量(m ³)	1,720	2,021	×
洗車手順の研究	-	洗車マニュアル 改定	-	○

去年までの主な取り組み		
蛇口をこまめに止める	ショールームの流しの水道	
男子トイレ改装	男子トイレの流す装置を今までセンサー式(トイレを通過するだけで、センサーが反応し水が流れてしまっていた)だったのを、ボタン式に変更。	 これです。
洗車マニュアル改定	洗車マニュアル①～⑥に⑦時間管理を追加した。	別紙 SAKAI 洗車マニュアル参照。
洗車用具の整理整頓	誰が洗車をして、効率よく出来るように、洗車用具の棚を作り、整理整頓を心掛けた。 工場の洗車道具の整理整頓 	
本年度からの新しい取り組み		
水道水の目標設定の見直し 【水道水が目標未達のため の是正】	地下水の枯渇により水道使用量が約2.5倍になった。新しく来年から目標設定し、基準年とすることにした。	
来年度からの取り組み予定		
断捨離ウィーク	月1回断捨離ウィークを策定し、6SS活動を加速させる。	
社内チェック DAY	社内チェックをショールーム、工場共に月1回行う【ショールーム:関根、工場:月舘】	

(4) グリーン購入の推進

『エコマーク商品の購入』『エコ整備部品の購入、販売』を取り組みました。3ヶ年目標は以下の通りです。

	リーダー	2017 年度	2018 年度	2019 年度
地球にやさしい 事務用品の購入	関根 中澤	ペン類、ペーパー類 のエコマークの付い た商品の購入	ペン類、ペーパー 類のエコマークの 付いた商品の購入	ペン類、ペーパー類 のエコマークの付い た商品の購入
エコタイヤ、エコバッテリ ーなどの購入販売	山口 黒岩	交換件数 基準年(2014 年度)の 3%増加	交換件数 基準年(2014 年度)の 4%増加	交換件数 基準年(2014 年度)の 5%増加

2016 年実績は以下の通りです。

項目	目標	2017 年度実績	達成状況
タイヤ	188 件	201 件	○
エンジンオイル	1232 件	1510 件	○
オートマチックオイル	54 件	13 件	×
バッテリー	87 件	73 件	×
スパークプラグ	40 件	38 件	×
エアーフィルター	63 件	86 件	○

去年までの主な取り組み		
地球にやさしい(エコマ ークの表示のある)事務 用品などの購入	   	
エコタイヤ、エコバッテ リーなどの購入販売	  	
ロープレ実施	修理内容説明時のロープレを実施した。	

お客様用 修理イメージカタログ	お客様に整備内容の説明、料金の説明に各テーブルで写真付きで説明できるように、カタログを作成した。	
---	---	---

(5) 自動車整備及び販売サービスに関する環境配慮の推進

ここでは当社の事業の柱である【販売】【整備】【保険】の3部門でそれぞれ目標を立てて取り組みました。3ヶ年目標は以下の通りです。

	リーダー	2017 年度	2018 年度	2019 年度
《販売》 エコカー、クリーンディーゼル車の販売	増田	エコカー、クリーンディーゼル車の販売	エコカー、クリーンディーゼル車の販売	エコカー、クリーンディーゼル車の販売
《整備》 定期点検実施率の向上	山口	定期点検 年間 715 台 入庫	定期点検 年間 730 台 入庫	定期点検 年間 740 台 入庫
《保険》 ECO 証券の推進	佐藤	ECO 証券率の推進 加入率 基準年(2014 年度)の 2% 増加	ECO 証券率の推進 加入率 基準年(2014 年度)の 3% 増加	ECO 証券率の推進 加入率 基準年(2014 年度)の 4% 増加

2017 年実績は以下の通りです。

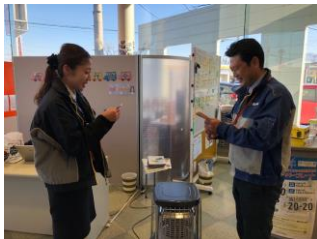
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
◎販売													
台数(台)	22	25	27	25	26	31	23	20	16	22	15	48	300
前年比(%)	122	156	117	179	236	182	105	111	46	71	35	83	98
達成状況													×
◎点検													
目標(台)	63	30	52	60	60	80	70	70	80	50	50	50	715
台数(台)	63	30	52	43	64	91	55	62	64	52	70	75	721
達成状況													○
◎ECO 証券													
目標(%)	2.68	2.16	6.08	10.51	13.39	27.09	27.50	20.6	0	12.88	5.67	13.29	
実績(%)	6.9	3.1	6.4	6.8	5.1	12.2	12.8	8.7	7.1	10.2	9	5.7	
A4 削減換算(枚)	24	11	22	24	18	42	44	30	25	35	31	20	465
削減量(g)	0.14	0.13	0.12	0.11	0.11	0.14	0.21	0.26	0.18	0.21	0.11	0.14	1.86
達成状況													○

(A 4 用紙 1 枚 4 g と想定し、節約した紙の重さを算出) 13

去年までの主な取り組み		
実績数値の計測	実績数値の把握と目標の設定をした。	
ロープレ実施	整備や商品の提案のロープレを実施	
本年度の新しい取り組み		
保険勉強会(保険部門未達の是正処置)	月1回、保険の講師を呼んで数字目標確認、知識勉強会開催します。	
今年からの新しい取り組み予定		
販売部門強化	車検満了3ヶ月前より、車検OR買い替え会議を開催し、買い替えのお客様の早期フォローを実施する。	

8. 各記録【ミーティング(是正処置) ロールプレイング 勉強会】

☆商品提案やお客様緊急事態のロールプレイングを行いました。



☆是正処置 ミーティングを行いました。

《月初、10日、20日、30日は朝8時よりミーティング》

《月一回の勉強会開催》

外部講師をお招きして



9. 社会貢献活動

昨年、一昨年に続き『あいさつスイッチオン研修』を中学校を中心に実施させて頂きました。あいさつが繋がって小学校や、幼稚園、高校、そして一般企業からも呼ばれるようになりました。



昨年度に引き続き市内小学校で、あいさつの寸劇をしました。あいさつの必要性、重要性を発信しました。



市内の小学校にて登校時間にあいさつ運動しました。



10. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

適用となる主な環境関連法規

水質汚濁防止法、浄化槽法、騒音規制法、振動規制法、廃棄物処理法、消防法、自動車リサイクル法 家電リサイクル法 フロン排出抑制法

当社の企業活動に伴い適用される環境関連法規等は上記のとおりです。環境管理責任者 青木圭吾 が中心となり法規の遵守状況についてもチェックを行い。現在及び過去3年間問題ないことを確認しました。また同様に関連機関及び近隣の住民からの指摘、苦情、訴訟などは1件もございませんでした。

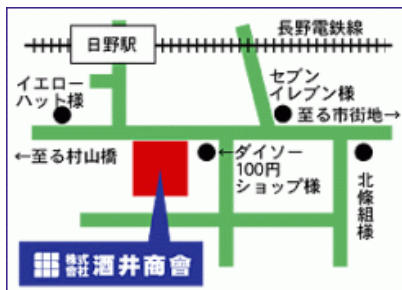
◎来年度からの取り組み予定

第一種特定製品のエアコン2機の3ヶ月に1度の自主点検(室外機・室内機の熱交換機および配管部分の異常音・異常振動・油にじみ・腐食・さび・傷・霜付きなど)を行います。

11. 代表者による見直し

今年度は、6S活動のさらなる進化に重点をおき、活動を行いました。昨年からの仕組みの運用とチェック体制の強化。特にチェック体制には社内だけでなく年2回(4月と10月に)に外部の企業の方々をお招きして、チェックをして頂く機会を作りました。定期的に開催することを習慣にすることで6S活動の維持とマンネリ防止になると考えます。この6S活動を継続することができれば、ショールームや工場がきれいに保てるだけでなく、安全に仕事でき、結果として仕事効率のアップにつながると考えます。

12. お問い合わせ



〒382 - 0054

長野県須坂市高梨町 2535

株式会社 酒井商会

TEL:026 - 245 - 0397

FAX:026 - 245 - 2931

Mail:info@sakai1910.co.jp

HP:http://www.sakai1910.co.jp